

ゲートキーパー講師養成研修（群馬県）

【概要】

市町村（住民向け）、企業（社員向け）が実施するゲートキーパー研修の講師を養成するため、保健師等を対象に研修を行う。デモンストレーションを聴講しながら教材（群馬県版ゲートキーパー手帳）の活用方法を学ぶための内容としている。
 なお、教材となるゲートキーパー手帳、講義用パワーポイント原稿等は県で作成し指導者に配布している。

【大綱の分類】

4（5）地域保健スタッフや産業保健スタッフの資質の向上

【政策パッケージ分類】

基2-4）関係者間の連携調整を担う人材の育成

【事業実施年度】 2019年度～

【事業予算】 64,600円（地域自殺対策強化交付金1/2事業）国庫32,000円

【利点】

- ▼ゲートキーパー研修のノウハウと教材を提供することで、市町村、企業が自前の事業として実施しやすくなる。
- ▼県内で同じ指導方法や教材とすることで、誰が講師になっても同じ内容を受講者に伝えることができる。
- ▼県内各地で実施できるため、多数のゲートキーパーを養成することができる。
- ▼参加者アンケートを基に教材のブラッシュアップがしやすい。

【実施に至るまで】**講師養成の経緯**

- ①県として求めるゲートキーパーの水準を確保できるよう、研修テキストとなる「群馬県版ゲートキーパー手帳」を作成（2010年度、手帳作成検討会にて作成）。
- ②誰が講師になっても同じ内容を受講者に伝えることができるよう、指導者用テキスト、投影用スライド、受講者用アンケートを教材とし作成した。
- ③2019年度より、市町村自殺対策計画策定に合わせ、広域支援者については当センターが、地域支援者については保健福祉事務所が、住民については市町村保健師が研修講師を担当することとし、役割を明確にした。
- ④2019年度、担い手となる地域保健保健師への研修を開始。2020年度、産業保健に従事する保健師にも研修を拡大。

計画を立てる上での工夫

- ①誰が講師になっても同じ内容を受講者に伝えることができるよう、指導者用テキスト、教材を作成した。
- ②参加者が実際に講師になることを想定し、デモンストレーションを聴講しながら教材の活用方法を学べる内容とした。
- ③参加者用アンケート、実施者用アンケートを教材とセットで配布し、教材のブラッシュアップや講話技術の評価に役立てる。

具体的な内容

- ▼研修は120分

- ・ 県内の自殺統計、現状等の説明（30分）
- ・ デモンストレーションと、指導ポイントの解説（60分）
- ・ 質疑応答・関連グッズ（貸出用啓発パネル等）の紹介（30分）

▼教材の配布

- ・ ゲートキーパー手帳
- ・ 指導者用テキスト（シナリオ、指導のポイント解説）
- ・ 投影用スライド
- ・ 受講者用アンケート
- ・ 実施者用アンケート

【成 果】

- ▼2019年度ゲートキーパー養成者数：県 1,243人 市町村 2,397人
- 2020年度ゲートキーパー養成者数：県 520人 市町村 750人

【補 足】

- ▼特になし

【課 題】

- ▼2020年度は、新型コロナの影響により研修頻度が減った。対面による研修を基本としてきたが、今後はオンラインによる研修についても検討する必要がある。

【事業種別】	研修実施（自殺対策担当および産業保健に従事する保健師等）
【準備期間】	90日
【人 数】	3人
【人口規模】	1,938,000人
【財政規模】	745,128,000,000円
【自治体負担率】	50%（地域自殺対策強化交付金1/2事業）国庫32,000円
【事業対象】	自殺対策、産業保健担当者
【支援対象】	様々（地域住民、会社従業員）
【委託の有無】	無し
【実施主体・問合せ先】	群馬県こころの健康センター TEL：027（263）1166 Mail：kokoro@pref.gunma.lg.jp

【参考資料・文献】

1. 群馬県こころの健康センターHP